

大草谷津田いきものの里 自然観察会

声で覚える冬の小鳥

木下順次（千葉市）

日 時：2012年1月15日（日）10時30分～12時00分 天候：曇り

参加者：大人17名 子ども6名

担当指導員：山岸文子・木下順次

新年最初の大草谷津田いきものの里自然観察会は野鳥観察で始まります。冬はバードウォッチングに最適の季節とは言いますが、寒の入りをしたばかりの一年で最も寒い時期ですから、野鳥もそうですが、参加者が、集まってくれるかどうかが心配です。当日は、肌寒く風もややある曇り空です。しかし、観察会は初めての3家族を含め23名もの参加をいただきました。中でも前週におこなった昭和の森観察会（こちらもテーマは野鳥観察）に参加されていた方が2組3名おられ、聞くと市政だよりをチェックして、野鳥観察会を探してきたとのこと。バードウォッチングの人気をあらためて実感しました。

導入の説明をすませて、杉林の中へ静かに入っていきます。しかし耳を澄ましても、なかなか鳥の鳴き声が近くに聞こえません。やつといつものごとくヒヨドリの鳴き声が聞こましたが、それも普段よりかなり控えめです。メジロの一群がスギの高いところで、数羽飛び交っているのを聴き、観察しましたが、すぐまたいざこかへ。コゲラのギーッという声もありますが、姿は見えません。

めじろんばかり左へ折れて休耕田へ。向かいの笹やぶの中にカシラダカやアオジの群れを探すが、姿は全く見えません。脇の斜面林の中からいつも聞こえるアオジやシジュウカラの地鳴きも全くなし。もともとのテーマが「声で覚える…」なので、みんな言葉少なく、耳を澄ませながら黙々と歩いています。ただでさえ静かな観察会なのに、鳥の声まで聞こえないのでは、どうしようもありません。少し路線変更して、本来いるはずの鳥を写真やイラストで解説をしてゆこうかとしたところ、湧水の近くでやっと水田の中におなじみさんを3羽発見しました。セグロセキレイの番とキセキレイです。逃がしてはならじと、やや離れた所から姿を捕らえるべくフィールドスコープで狙います。しかし、地中のムシを探しながら（あるいは播いたばかりの米糠も食べているようですが）、せわしなく動くので、フィールドスコープで捕らえたと思ってもすぐに視界から出てしまいます。参加者には、順番に覗いてもらひながらも、少しづつ前進してセキレイに近づきながら、肉眼でもじっくり観察してもらいました。何しろ、この3羽しか観察対象がいないのですから。セキレイ3種（ハク、セグロ、キ）の見た目の違いと行動・しぐさの共通点を説明しながら、飛び立ったときにすかさず鳴き声の違いも皆さんに聞いてもらいました。参加者からは「鳥が糞を落とすと、それも肥料になるのよ」と、里山生態系の仕組みに言が及ぶことも。

木のベンチの後方、林の中に参加者が発見したキイロスズメバチの巣や、鴻巣谷津へ向かう道端に早くも咲き始めたタチツボスミレを観察しながら、カラの混群を探すも、こちらはまたも空振りで斜面林の奥遠くにシジュウカラの鳴き声だけがします。

階段を上って下ン畠へ上ると、やたらとカラスの群れが大騒ぎしています。皆でなぜ？なぜ？と不思議に思いながら、杉の植林地の手前まで来るひときわ喧騒が大きくなり、「とカケスやアカハラ（シロハラ？）のすさまじい叫び声（？）とともに林間を縫うように飛びすぎるシルエットが…。」原因は分かりませんでしたが、何らかの騒動が林の中であったようです。杉の植林を抜けた最後の下り坂の藪の中からはウグイスの地鳴きが聞こえ、最期の最後になってやっと調子が出始めるも観察会はここで終了です。ウグイスの地鳴きを聴きながらの参加者の一言は「春が待ち遠しいですね」。最期のまとめも終わり解散となったところで、駐車場奥の林中にカケスの姿を発見。あわてて参加者を呼び戻しての延長観察となり、やっと参加者の皆さんにおみやげができたと思いつつも、なんとも調子の狂う観察会ではありました。